



地域の特色を生かした授業で子どもたちの学びを広げる

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子



今年度は四年生の社会科専科を仰せつかっています。四年生は郷土の社会事象を取り上げますので、地域ごとに学習内容が異なり、単元づくりの楽しさがあります。中でも今年度は教科書改訂期にあたりますので、郷土の社会事象も以前とは違った取り上げ方をすることにになります。

教科書を見ますと、『昔から今へと続く街づくり』とあります。これは新鮮でいいなあと思いました。というのは、これまでの郷土の開発単元は開発した時の歴史事象を取り上げるのみで、その後どのようにして現在に至ったかまで触れることがなかったからです。

我が横浜では、多くの学校で江戸時代中期の吉田新田開発を取り上げています。現在そこは横浜中心部でビルが立ち並んでいます。これまで田んぼがどのような市街地になっていったかは、取り上げてきませんでした。

新単元では、そのあたりの事象を取り上げることが可能です。早速どのような学習ができるか考えてみることにしました。

○あれこれ浮かぶ指導案

まず、吉田新田の開発は従来どおりの取り組みとしました。ただ私たちはこれまで埋め立てとして取り上げていましたが、歴史博物館の方に言わせると、「あれは埋め立てではありません。干拓なのです」ということなので、その部分に変更を余儀なくされました。

次に江戸時代末期の学習ですが、これは六つの学習内容が想定されました。○開港に尽力した大老の井伊直弼とペリーの役割（直弼像と日米交渉の碑が市内にあり）

○横浜開港に役立った横浜新田と太田屋新田の埋め立て

○横浜開港に伴う幕府による横浜の街づくり

○鉄道開通に尽力した高島嘉右衛門と生糸商人の原三溪（桜木町駅前の碑と三溪園）

○町が壊れてしまった関東大震災・横浜大空襲と戦後の吉田新田内の米軍による占領（立ち並ぶかまぼこ兵舎や飛行場など）。戦争そのものに深入りせず、他都市に比べ横浜の復興はかなり遅れたことを指導の眼目に

子どもと動き回れる。子どもと感覚がぴったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、現在は小学校の初任者指導にあたっている。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のブログ」を執筆中。

横浜開港に伴い、様々な外国の文化が横浜を通して日本に入ってきました。市内には「クリーニング発祥の地」や「テ

「はまっこ」なのだそうです。横浜とは逆に歴史のある街なら、伝統のある町として学習を進めることが可能でしょう。

横浜は他地域に比べ『よそもの』意識が比較的ない町と言えます。江戸は三代続かないと江戸っ子とは言えないそうですが、横浜は住んで三日たてば「はまっこ」なのだそうです。横浜とは逆に歴史のある街なら、伝統のある町として学習を進めることが可能でしょう。

○その地域特有の歴史事象を探る

横浜は幕末の横浜開港以後の歴史の浅い都市です。開港以前は人口千人程度でした。発展に尽力した先人はみな他地域から横浜にやってきた人々なのです。前述の高島嘉右衛門にしても江戸、原三溪にしても岐阜の出身です。吉田新田生みの親である吉田勘兵衛にしても、京都大阪の国境いの出身でした。

また野毛山には、「横浜水道の父」ともいわれる英国人、パーマーの胸像があります。現在の横浜は世界中の多くの都市と姉妹都市となっているので、それも取り上げていきたいところです。このように、取り扱いたいところを挙げていけばざりがありません。

二スが初めて行われた」など、それらを記念した多くの碑文があります。これらは、「横浜もののはじめ」として有名です。一方、都市としての歴史が浅く、地域に定着した伝統行事がないことも特徴です。教科書には、地域に古くから伝わる伝統芸能として阿波踊りが載っています。しかしこれはやや無理があるように思われます。開港の頃からの伝統芸能に「野毛山節」がありますが、横浜市民の多くがこれを知りません。外国とのつながりについては、幕末からの豊かな姿を見ることが可能です。開港のころの横浜は「居留地」といい、日本大通りから山下公園のほうにかけて外国人の居住地域とされ、日曜日まで外国人の楽隊が街を練り歩きました。横浜浮世絵にはこれらの異文化豊かな生活が描かれています。



○地域の特色を授業に生かそう
小学校中学年の社会科では、地域に根ざした事例を、社会科の教材として活用することが重要です。それぞれの地域には独自の特色があり、その魅力や特徴を理解して授業に反映させることで、子どもたちの学びがより深まります。また、地域の特性に応じた題材を選ぶことで、地元への愛着や関心を高めるきっかけにもつながります。
先生方には、地域ならではの素材を生かした創意工夫を楽しみながら、子どもたちと共に学びを広げていただければと思います。地域ごとの特色を生かした授業は、きっと新たな発見や感動を生むでしょう。